

JR西労組中央本部青年女性委員会 第34回定期委員会(発言集約要旨)

仲間との助け合いや繋がりを大切に 西労組運動を押し進めよう

JR西労組中央本部青年女性委員会は、2024年10月14日(月)～15日(火)にホテルグランヴィア広島において約140名参加のもと「第34回定期委員会」を開催した。冒頭、準備地本を代表して高杉事務局長(広島地本)から歓迎の挨拶が行われ、議長に林委員(神戸地本)、向田委員(広島地本)の両名を選出し、議事を進めた。

常任委員会を代表して、李澤委員長が「安全」「政治活動」「春闘労働協約改訂交渉」「組織・青女活動」について挨拶をした。また多くの来賓の方々にも臨席を賜り、激励の挨拶を頂いた後、活動経過報告・活動方針(案)の提起を行った。

2日目に全体質疑を行い、各地本・総支部を代表して29名の委員から、57項目について意見が出され活動方針を補強した。その後、メインスローガン「サプスローガン」、活動方針等が満場一致で採択された。

全体質疑

- 宮田 桃花(広島地本) 広島病院支部が4月から自治労へと変わるが、ユースフォーラム等多くの方と触れあう機会の提供をお願いする。
- 神部 崇(神戸地本) 青女世代の執行部役員への要請がある。規定の改訂を変更できないのか。
- 寺岡 大介(岡山地本) 電気部門のファーストステップ

ブ研修にて、教材を冊子で配布することを希望する。- 新入社員の組合加入の際、恐怖感を感じる時があるとの声がある。動機づけの検討を。30歳以上の社会人採用は青女活動に携われない。何か検討しているのか。
- 組合が原因でワークライフバランスが崩れる。全員が関わられる仕組みが必要。

- インスタグラムで、各地本の活動を知らせてほしい。
- 幸賀 啓泰(福知山地本) エリアの意識に違いがある。事故後人社の組合員へ事故の悲惨さを伝えていく。
- 活用しやすく、不公平感のない制度を。エリア手当てや住宅補給金の増額をお願いしたい。
- 武田 航(大阪地本) 駅で育短やシニアハーフを人数で育短を大きく負担。要員の正しいカウント方法を教えてほしい。

●更衣時間を労働時間として考え直してほしい。

●旧支社エリアを跨ぐ社員同士の配偶者同行制度が却下され、長時間通勤を行っている。適応範囲の拡大を。

●奨学金の肩代わりをする制度を新設してほしい。

●岩城 虎太郎(西バス地本) バスフォーラムへ23名参加。他のバスグループと有意義な交流ができたとの声。

●プロ採の本社異動は手当て

が無く、手取りが減る。そして手当を求め。

●万博には西バスのシャトルバスの利用の協力をお願いする。

●大垣 崇(神戸地本) 育休制度について、人手不足でせつなく勝ち取った制度が使えない。

●松本 敬太(中バス地本) 青女組合員減少に伴う年齢上限引き上げについて、段階的に進めるべきか。

●常任委員会の旅費負担について、節約も限界がある。本部から支援をお願いする。

●乗務員不足について、悪循環の制度改正になっている。労働基準法改正をお願いしたい。

●才原 宏之(本社総支部) 昨年より、新入社員研修を終え、支社や本社間接部門に着任する総合職が出てきた。管理職の過程で現場を知らないのは、適切な部下の指導に不安が残る。

●中川 瑠芽(京都地本) 初期配属の間接部門配属対象者は、全系統が対象か、また当事者への現業区業務理解のフォローアップ計画について、説明が欲しい。

●吉谷 和希(広島地本) 今春闘は手当りあきの賃金体系を作ったのではと思う。妥結した経緯と、25春闘の闘い方をお聞きしたい。

●森本 託実(中バス地本) JR西日本グループである中バスも、制服の統一はできないのか。



宮田委員



寺岡委員



岩城委員



幸賀委員



松本委員



才原委員



吉谷委員



森本委員



神部委員



武田委員



大垣委員



中川委員



中津委員



高林委員



中津彰太(京都地本)



高林大樹(金沢地本)

李澤青年女性委員長挨拶(要旨)

「JR西労組で良い」ではなく「JR西労組じゃないとダメだ」へ 求心力のある組織を創り上げていこう

はじめに

私は、連合の珠洲市災害ボランティア活動に参加した。現地の惨状は想像を超えるものであったが、そこでも、人と人の助け合いの大切さを認識させられた。激甚化する自然災害が発生しても、必ず、復旧・復興は果たされる。私は信じている。その先には、必ずこれを超える以上の強い信頼・絆が生まれていることを。

この先も仲間との助け合いや繋がりを大切に感じて活動いただくことを願います。

安全の確立について

未だに重大労災や死亡に繋がりがかねない事故が続いている。安全が0番であることの意味、安全を最優先とし、「ゼロからの出発」という意味を、改めて皆さんと確認し、共有したい。

安全は確約されたものではない。ルールを守り、一定の注意力を要するものである。ルールは守るためにあるが、そのルールが実態にそぐわないものであるならば、それを変える議論をすべきである。それは現場で働く者の責務である。

重大労災防止の行動指針(改訂版)をお配りさせていただいた。グループ会社や協力会社の方と業務をする際には、ぜひ活用し、一緒に確認しあっていたいただきたい。

「安全お守り手帳」を活用いただき、「(A)当たり前のことを、(B)馬鹿にせず、(C)ちゃんとする」ABC運動と、確認会話やこまめな声掛けを、全ての職場で取り組むことを要請する。世界で一番安全なJRを全組合員一丸となって作り上げていこう。

政治活動について

耳にタコができるほど言っているが、政治は無関係でも無関係ではいられない。これまで、各政治家の働きにより省庁や大臣への要請行動を行ってきた。コロナ禍における「雇用調整助成金の特例措置延長」、「産業雇用安定助成金の適用拡大」などの実現も勝ち取ることができた。

昨年4月には改正地域交通法が成立し、地方路線の在り方についての議論が加速している。

会社では、輸送密度2,000人未満17路線30区間が公表された。地方議会でも地域公共交通の重要性について、訴えてくれている議員がいる。この議員を応援する。このことは決して間違いではない。引き続きのご協力と、投票行動を要請する。

春季生活闘争・労働協約改訂交渉

2024春季生活闘争は、連合・JR連合の方針に則り、統一ペーパー要求10,000円、年間臨給5・7箇月、初任給の増額とそれに伴った賃金カーブへの改善、各種手当の新設や改善、地上職を中心とした処遇改善を柱とし、交渉をスタートさせた。

粘り強く交渉を展開してきた結果、賃金引上げ額が定期昇給を含めて社員平均19,820円、引き上げ率6・3%という、JR西労組発足以降、過去最高の賃金引上げとなったほか、「年間臨給5・2箇月、各種手当の新設や増額」等の回答を受けた。両バス地本においてもペーパーを勝ち取り、グループにも波及ある春闘となった。

労働協約改訂交渉についても、計511項目を56項目に集約し、交渉を続け、多くの改善を図ることができた。特に、短日数勤務(8日)の全職種拡大、介護短時間勤務制度の新設、難病・障がいを持つ子を養育する社員を支援する制度の拡充、フレックスタイム職場に選択的週休3日制、いわゆるゼロ時間フレックスの導入、採用時の年休付与日数の見直しなど多くの成果を勝ち取ることができた。

組織・青女活動について

現在、青年女性委員会は約5,500名で、JR西労組の約20%を占めている。新入社員の加入行動についても、912名全員加入を果たした。各地本・総支部青女委員会の組織加入に対する責任ある取り組みに感謝申し上げる。

一方、残念なことには、JR西労組を脱退し他労組へ加入する事象も発生している。組織が大きくなり、「一人ひとりの声が聞こえにくい」「情報が行き届かない」といった弊害も出てくる。労働組合は困っている仲間を助ける組織である。このような事象を起さないためにも、仕事や生活の中で不安や不満がないか、組合員一人ひとりの声に耳を傾けてほしい。

今年、兵庫県丹波篠山市で、ユーススピリット2024を開催した。こういった活動を通じて、同じJR西日本グループで働く同世代の仲間やグループ会社の方と繋がる機会としてほしい。

私たちがめざすべきところは、「JR西労組で良い」ではなく「JR西労組が良い」「JR西労組じゃないとダメだ」と言われる、求心力のある組織を創り上げていく事である。

みなさんにご理解いただき、みなさん一人ひとりの力をぜひ貸していただきたい。



岩城委員



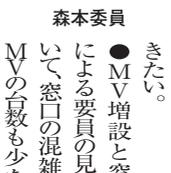
才原委員



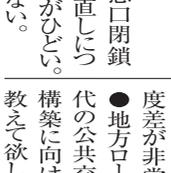
中川委員



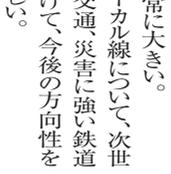
森本委員



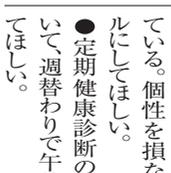
吉谷委員



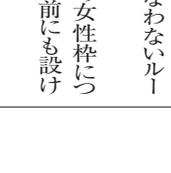
中津委員



高林委員



中津委員



高林委員